

粉末花粉の調整法

参考までに当養蜂場の調製方法を紹介します

I. 準備するもの

1. 底の広い鍋か、バットのような容器
2. 粉末花粉…約 1 kg
3. 精製蜂蜜、糖液（糖度 75° に近いもの）…約 650g
4. 食品用トレイ…深さ 1 cm 程度の浅い、透明なもの
5. アメリカ腐蛆病予防のために抗生物質を混ぜて投与したい場合は、必ず獣医師の診断を受け、指示書を以って動物用医薬品販売業者から入手する。投与量と方法は獣医師の処方に従うこと。

II. 調整方法

1. 花粉に上記 3 の糖液を加えて練る。粉と糖液で固さを微調整。
2. つきたての餅程度になったら、トレイまたはビニール袋に詰める。
3. 空気に触れる表面が固く乾く性質があるので、すぐに容器に詰めない場合は表面を隙間なくビニールシートなどで覆う。
4. トレイに詰めたらラップで包み、すぐに使わない場合は冷蔵庫で保存する。

III. 投与量・投与方法

1. 蜂を燻煙して内部に追い込んでから、トレイを逆さに巣枠上部に置く。
2. 投与量は、蜂 1 枚につき粉末花粉パテ 50～100g を目安とする。
3. この量なら、おおよそ 1 週間で摂取するが、気温、日長、育児圏の大小、または外界の花粉源の状況など、様々な条件によって違ってくる。

IV. 投与時期・効果

1. 花粉が不足している時はいつ与えても良い。産卵や育児を促し、成蜂の寿命を延ばす効果が著しく、無花期の蜂減りを抑える。
2. 初春の建勢目的の場合は、桜の開花時期から逆算して、40～50 日前から投与を始め、途切れないように 1 ヶ月以上継続して投与する
はじめは少量、消費の程度に合わせて投与量を増やしてゆく。
4. ビニールハウスの授粉用ミツバチの場合、導入の約 1 週間前から投与すれば女王蜂の産卵が再開するので、「蜂が出ない」「飛び回るが、花に止まらない」などの苦情がなくなる。またリース期間が終了後、残り蜂の数が多し。

4. 王台養成群に与えれば、ローヤルゼリーを多く貯え、王台が大きくなるとともに、移虫成功率が高まる。また、養成群の成蜂の減少を防ぎ、繰り返し利用することが可能になる。
5. 粉末花粉パテに抗生物質を混ぜて投与すれば、糖液に混入した場合に比べ貯蜜に抗生物質が移行する量が少なく、残留する期間が大幅に短くなる。
6. 天然花粉に匹敵する嗜好性があるため、弱群でもよく摂取する。

V. 注意すること

1. 気温が低く、夜間に蜂球状態になる状態では摂取しません。
冬は蜂を十分に混ませた上、断熱材などで囲ってから与えてください。
2. 花粉の投与によって、産卵が促され、蜂児圏が形成されますが、これらの蜂が出房すると、貯蜜と共に粉末花粉パテも一気に消費が進みます。この日令の時に、最も大量のタンパク質を必要とするのであって、この時の花粉の摂取量が、その後の蜂の寿命に大きな影響を与えます。したがって特にこの時期に貯蜜や花粉を切らせないようにしてください。
3. 外界から新鮮な花粉が入り出すと、逆に摂取速度が鈍ります。→投与を中止。
4. 弱群に過大な量を与えると、かびが生えるかもしれません。2週間以内に食べ尽くすように、群勢にあった量を与えてください。